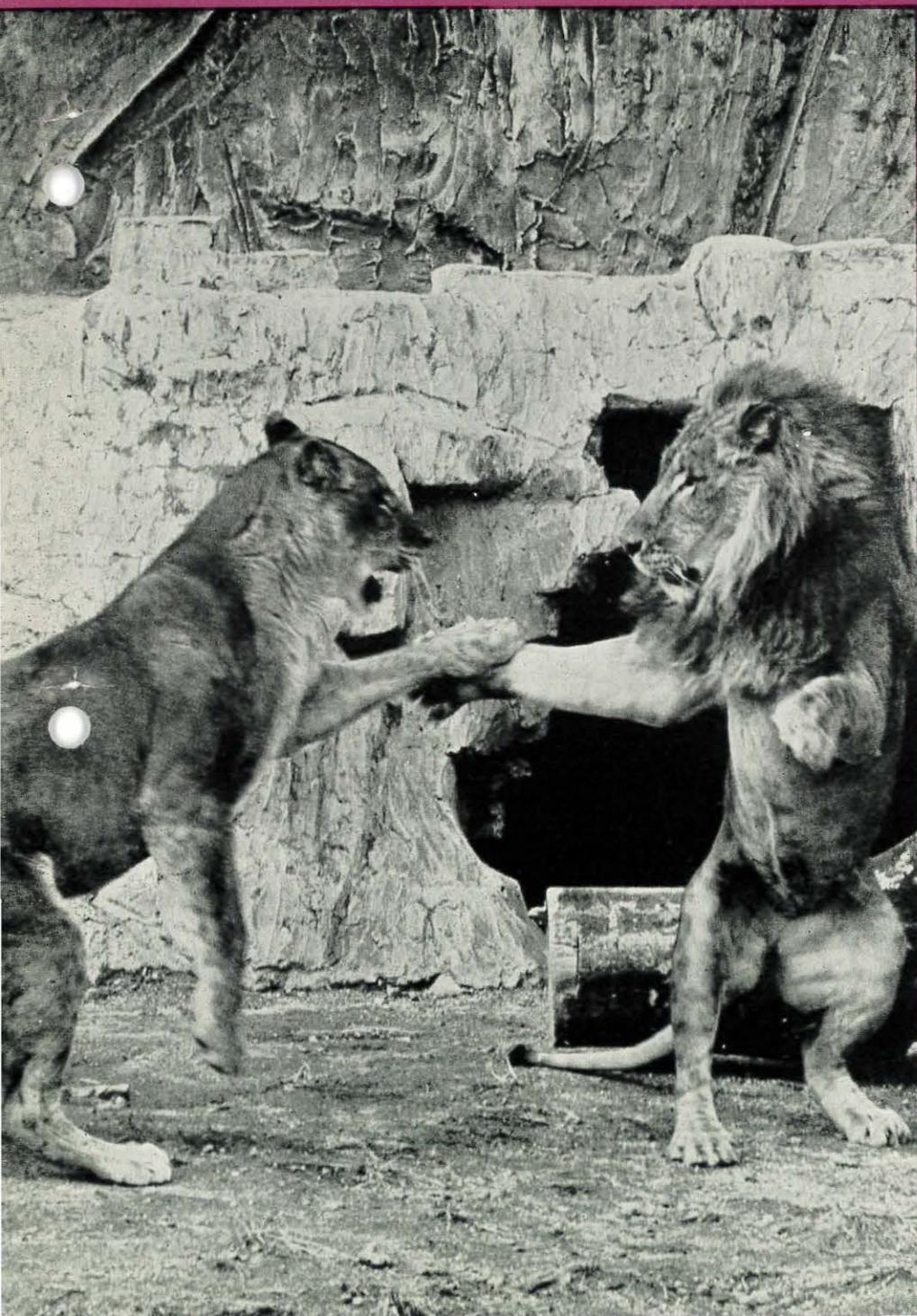


なきごえ



1967

2

大阪市
天王寺動物園

日本猿 霊長目 さる科

動物園の人気物は、なんといってもお猿です。これはその動物が人に近いので親しみがあるのでしょう。

猿の仲間は、大体 30属 160種以上に及んでいますが、その殆んどが熱帯及び亜熱帯に住んでいますから温帯地方に住む日本猿は、地球上で北の限界に住む非常に貴重な猿の種類なのです。

日本猿の仲間は学名で、マカカ属と呼ばれています。この属の種類は13種ありますが、日本猿を除いては前述の通り、台湾、インド、フィリピン東南アジアに分布しています。

日本猿は、森林を巧みに利用して生活していて私たちの前には姿を現わさなかったのですが、近年動物学者の努力による餌付けの成功によって、観光地などでは、野猿がお客から餌をねだるほほえましい光景が随所に見られ、その生態がつぶさに観察せられるようになりました。

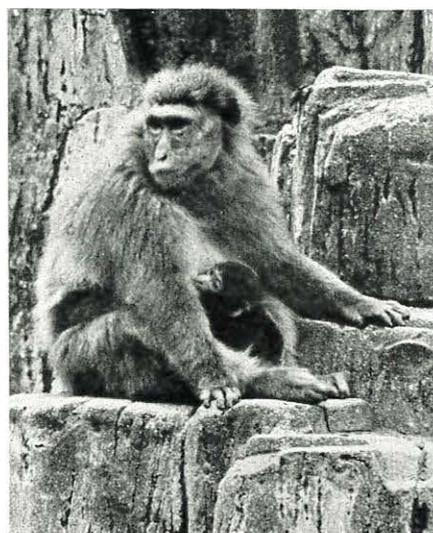
先ず群中で 3 cm 程度のしっぽを威勢よくピンとあげて、極めて堂々と構えているのがボス猿でこの周囲にめすがその序列に従って控えます。おもしろいことにはこのめすが抱えている幼児の一番ヤンチャ者の母親が、最も位が高いとされています。人間社会の悪弊とでもいうか殿様の小作が威張り散らすのが、猿の社会には残っているのです。もしこのような人間の子供がいたら、これこそ猿マネというべきでしょう。

移動のときは、ボスの命令一下行動を起しますが、行進の順序は一定しています。雄の若物猿が、先頭と両脇を守り、ボス猿を中心に順の高い雄や幼児を連れた雌たちが中心に位置して進みます。この体型が軍隊の戦闘行進の体型に合致しているのも、おもしろいではありませんか。

現在都市に人口が集中して、都市構成の改革が問題になっています。猿の社会も例外ではありません。1961年、1962～3年の2回にわたって、大分県の高崎山の群れは分裂をおこして3群に分れ、現在では 1,000頭に達したとの報告があります。

猿についての研究は、日本が一番進んでいます。このことは欧州、北米に野生の猿が生息していないことにもよりますが、先進国のうちで戦後いち早くこれに着目した、日本の霊長目研究者の偉大な功績です。

猿の社会生活を理解することは、私たちが進化してきた背景を逆に探知することができて、人間とはどんなものであるかということを知る上に、



大きく役立つのです。猿の社会行動を観察していると、今まで推測されていたよりも、ずっと近い点が発見されるそうです。猿の子供たちが成長するにつれて、人間の子供たちが学ばなければならないように、行動のおきてを習得して行かねばならないのですが、これは一般の動物が生存していくのに必要な程度をはるかに上回るものだそうです。又彼らが余りにも人に似た振舞いをするので、人が姿を替えているのではないかと、研究者たちは妙な気分になるといわれます。

今や動物学はもちろん、心理学、病理学、生化学、精神医学の方面からも、ますます重要視されるようになったのも、日本猿の研究がその草分けとなっています。人間の小児マヒのワクチンは、日本猿が少ないので同属のなかで繁殖のおう盛なカニクイザルが用いられていることもご記憶下さい。また人の赤痢の究明にもなくてはならぬ存在です。

本園の日本猿は、南園の猿島で全盛期には、25頭の団体生活を営んでいましたが、雌が少なく繁殖率が悪いので現在9頭の群になりました。餌は皆様よくご存知でしょうから省略しますが、ダシジャコや卵のような動物性蛋白質も欠かすことはできません。野生では小鳥の巣から卵を失敬したり、イナゴを喰べているからです。(松岡恵爾)

表紙の写真説明

何が気に入らないのかけんかをしています。立派なたてがみのおすライオンもめすのけんまくには、タジタジ。

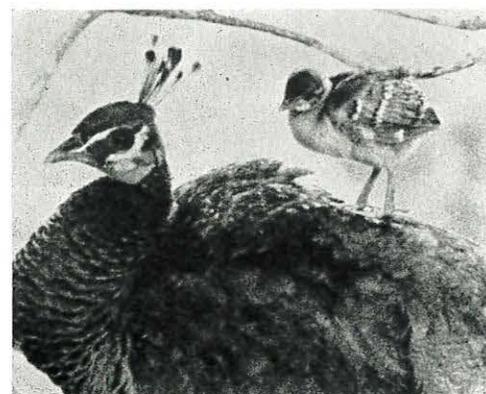
くじゃくの飼い方

くじゃくも、そろそろ美しい尾羽根をひろげ、優雅な姿で春の訪れを知らせ始めました。この時期に前号(11月号)で述べた餌をうんと与えておきますと、5・6月ごろに産卵いたします。その間にふ化の準備を整えておきましょう。

自然ふ化の場合は、あまり心配ありませんが、小屋が小さすぎたり、そうぞうしいとか、外敵(犬、猫、いたち、ねずみ)に襲われやすいような所では、ほとんど巣引きをしないので、そのような時には卵をひきとって母鶏に抱かせたり、電気ふ卵機に入れてふ化しなければなりません。

☆母鶏をかりる場合は、

なるべく巣引きのじょうずな鶏(例えば名古屋コーチン雌など)を選んで下さい。ただ鶏のふ化と違う点は、くじゃくの卵が大きいので母鶏1羽に抱かせる卵の数は、3～4コ位が限度ですから、あらかじめ産卵の個数に応じて母鶏(巣引鶏)を4～5羽位準備しておく必要があります。



次に巣引室の準備ですが、巣引室は大体室温 15°C 位の所で、排水及び通風がよく、母鶏の運動、砂浴の出来るようなところがよろしい。さらに外敵に襲われないよう母鶏が安心して抱卵出来る条件が必要です。又巣座は常に清潔にしておいて下さい。

卵は清潔な所にきずをつけないようにしまっておきます。1週間ぐらい前のものまでが良いのです。これ以上長くなったものはふ化率が悪くなります。

入卵し終ると母鶏を産室に移し、いよいよ抱卵に入ります。その間母鶏の採食、飲水、巣引きの時間、運動に注意して下さい。又小屋の清掃や、1～2回の卵の点検をし、無精卵やひび割れ卵は取

除くようにします。28～33日すると雛がふ化します。巣引き室をそのまま引き続き次のふ化に使用するときには、雛は母鶏と共に他に移さなければなりません。

その場合も外敵のこない、日当たりと通風の良い、母鶏とも運動の出来る、やや広い小屋が心要です。

ふ化後24時間は、雛には何も与えず2日目より初雛用配合飼料(チックフード)と煮ぬきの黄味を与えます。又大根葉も細かくきざんで与えて下さい。

1ヶ月位は母鶏につけておきますが、それ以後は雛だけにして育てます。2～3ヶ月ごろによく死

なせますので注意が必要です。育雛について、特にくじゃくの雛は非常に湿気に弱いので、通風、採光、運動をよくし、雨露を防ぐようにしてやり、小屋の消毒、とくに雛にダニ、毛ジラミなどの外寄生虫がおれば駆除しなければなりません。大体雛の健康状態をみるのに、夜間の安眠状態では

知ることが出来るので、夜間の観察が大変必要です。

夏には蚊の侵入を防ぐようにしておけば尚よろしい。又雛には脚弱症が多く発生しますので、飼料に肝油を添加し日光浴をさせます。又病菌に侵され易いので小屋の清潔清掃を丹念にするよう心掛けて下さい。一年目の冬は少し寒いので、寒風の入らないようにし、安眠を妨げられる様子があれば少し暖房してやれば結構です。

最初の冬を切りぬければ、ほぼ成功です。3年もたてば立派な親くじゃくとなるでしょう。電気ふ卵機に入卵する方法は、家庭では装置の点などで困難を伴いますので、ここでは省略します。

(米田 敏光)

動物園グラフ

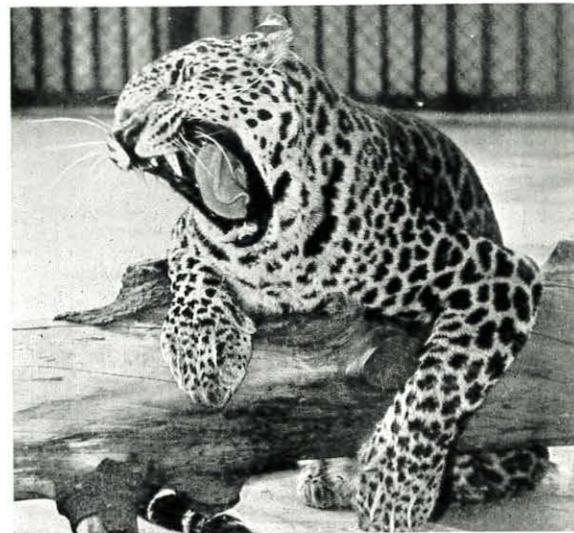


↑ くるひょう

どう猛な顔をしていますね、近よると白い牙をむいておこっています。マレー半島などに住んでいます、ひょうと別種ではありません。

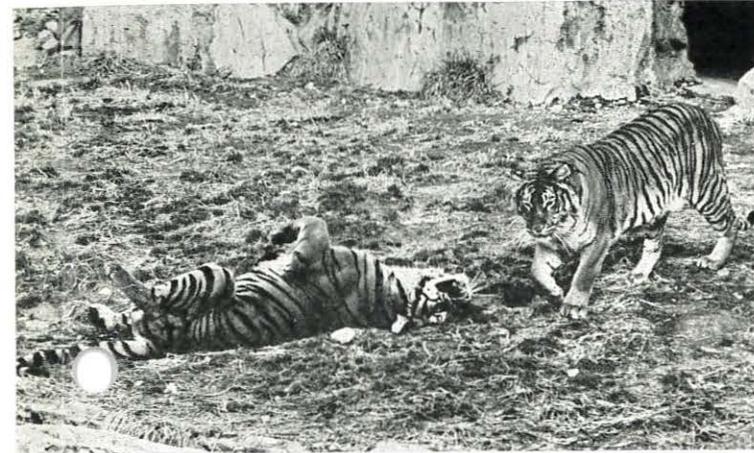
当園の“ネコの仲間、”たちを集めました。

世界唯一の飼育動物のツシマヤマネコを始め8種を飼育しています。



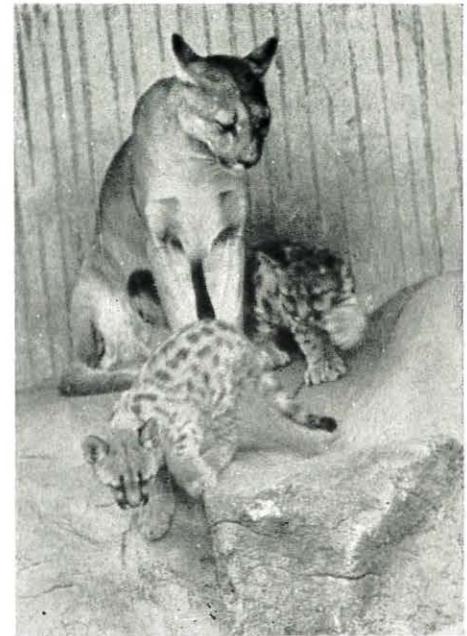
↑ インドひょう

アーと大あくび、たいくつだなあー。えさを狩ることもなく毎日陽なたポッコをしています。



↑ とら

広い運動場でおもいきり跳ねまわっています。寒さなんかヘッチャラダ!! 入園後3年半すっかり大きくなり、これから赤ちゃんの誕生も期待されます。



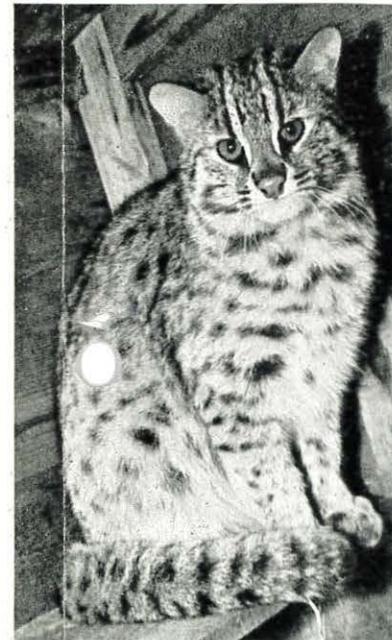
↑ ピューマ (アメリカライオン)

オイタをしてはいけません。子供たちのおもりも楽じゃない。今では子供たちはすっかり大きくなり別居しています。



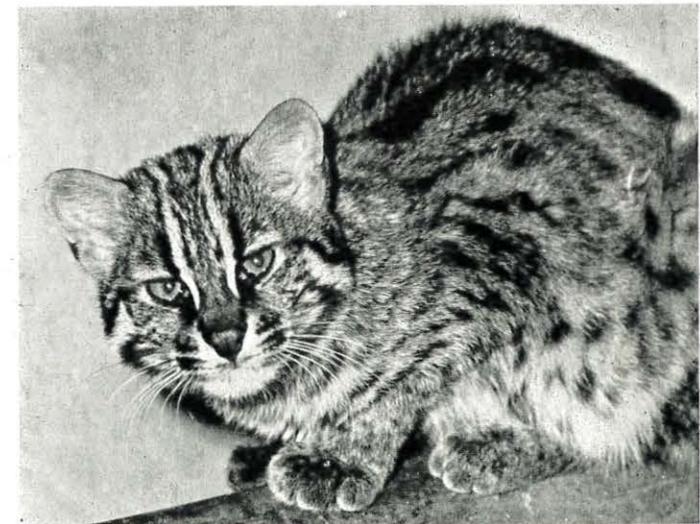
← ライオン

ウーンのびをしたり、寝そべったり、ライオンも陽だまりでのんびり、早く春がこないかなあー、そしてよいこたちもたくさん来てほしいなあー。



← ちょうせんやまねこ

つしまやまねこよりひとまわり大きく色も淡い。昨年8月14日入園しました。



↑ ツシマやまねこ

昨年8月に対馬で捕えられたもので世界中でこの一頭しか飼われていない珍猫です。生後約1年めで名前はマヤちゃん。

1月 動物園日記

① 今年のあたり年ひつじたちに雑煮をお祝いしてやりました。又、チンパンジーのキャンデーちゃんも晴れ着を着せてもらって、おとそがわりのミルクとお雑煮のおもちを3つもほおばっていました。あいにくの雨で入園者もまばらでした。

② 元旦とは違って、よいお天気になりましたが、強い寒風が吹いて動物たちをふるえ上せました。
⑤ 永らくてんかんの病気で治療中でしたドリルが死にました。
⑬ エランドのめすが下痢をしていますので治療しています。
⑭ ゴリラのゴリちゃんは入園後すくすく成長し、満7才となり、この日人間の成人式に先がけて成猿式?を行ないました。

⑮ シベリア寒波がおしよせフラインゴ池などに2cm以上の厚い氷がはりつめました。寒さに弱い動物たちをふるえ上せました。
⑯ 寒さがやゝ柔らぎました。水鳥たちも元気に池で水あびしていました。
⑳-㉓ 3月中旬の陽気になり、暖かい陽ざしに、ゴリラなど熱帯

生れの動物たちも仲々遊んでいました。
㉔ くらぼうしてながざるの寄附がありました。
㉕ こくちょうが2年ぶりに卵をうみ抱卵をはじめました。
㉖ チンパンジーたちが少し感冒にかかっていますので、薬を与えて治療しています。

ペットを訪ねて

名鶯の育ての親

大阪市生野区林寺町三丁目一五八

高野 佐吉 さん

鶯の声の大きく静しく静かさよ 虚子

コマ、オールリと共に日本の三大鳴鳥の一つウグイスは、古くからそのみやびやかな鳴き音を愛され、多くの詩や歌によまれています。この風流な道楽も時代の波に流されてその姿を失いつつあります。

そこで今日は、「王冠」「初音」「赤城」「宝明」「高砂」とかつての幾多の名鶯を育てあげた「ウグイス育ての名人」高野佐吉さんを訪ね、名鶯をつくるアレコレをお尋ねしました。

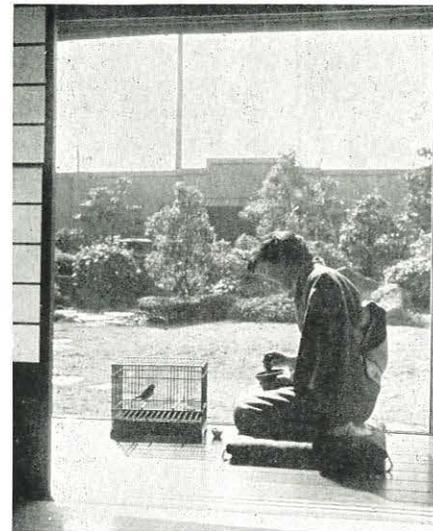
「まずヒナを手に入れること。それには新緑の晩春から6月頃、フゴを片手に朝霧の山の中に踏み入れて巣を捜します。巣は大抵の場合、川岸や笹藪の蔭、地上1メートルまでの高さの朝日を受ける場所に多い。見つけるのに大変苦勞しますが、なれると第六感で親鳥の鳴き方や飛び方を見てピタリと見分ける事ができます。いわば釣師のカンと一緒に、巣の中にヒナを見つけた喜びは、鶯道楽第一歩の喜びです。

鳴かないメスはそのままして、ふ化後1週間ぐらいのものを持ち帰ります。

これからが大変です。親が育てていたものを人工飼料に切替るのですから、ネリ餌の吟味や与え方にも独特の苦勞がいます。六分餌を竹べらですくって、素早くノドの手前の方に向けて入れてやりませう。ノドをついたりすると口を開けないようになるので注意が肝要です。

こうして1カ月ぐらいたつと、自分で餌を食べるようになるのでウグイス籠に移します。それから初めてよく鳴く先生の声聞かせて、鳴き方の教育が始るわけですね。小学校、中学校、大学と3段階があり、それぞれの先生につけます。

最初の小学校の授業は「地付け」といって、6月から7月にかけての1カ月間で一通りの鳴き方を教えられ、本能をさませられます。8月に入ると中学校で約20日間の授業「土用付け」があります。授業は毎朝5時から7時までで、そのため先生のいる所へ日参するわけですね。初発電車に乗ったり自転車に乗り、雨の日も風の日も一日も休まず出掛けなければならず、どうしても早起きのいい習慣がつかます。これが終ると丁度換毛期にな



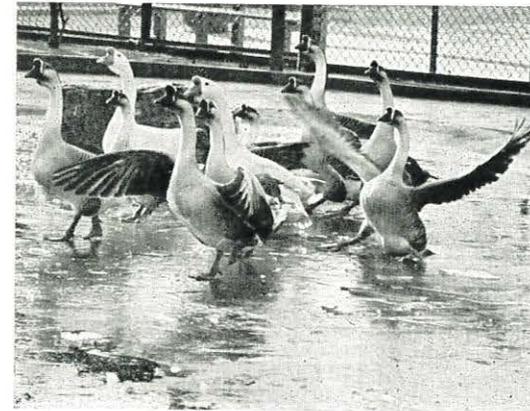
名鶯とすみ子夫人

り、12月始めまでは長い休暇を与えます。鶯はこの間に一人前の青年に成長するわけですね。最後の大学の授業は12月から始ります。これは上げ付けといわれるもので、先生は名鳥中の名鳥が選ばれます。この時は親鳥を鳴かせるため、一種の人工季節のトリックを行ないます。冬の真最中に親鳥を春のように思い込ませるのですから、このトリックもなかなか手の込んだもので、例えば日没が早いので鳴かせ箱の前に、午後4時頃になると電燈をつき、人工太陽で春日遅々といった感じを与えます。朝は朝で親鳥の頭にジョロで水をぶっかけ、完全に季節を感違ひさせてしまいます。鶯は、だまされたとは知らず、冬の最中だとも知らず、朝早くから「ホーホケキョ」と鳴き出すわけで、これを生徒の鶯が一生懸命聞き習うわけですね。素質のよい生徒は十数日で先生の鳴き方を伝授され、見事に自分の持ち味を加えて名鳥になるわけですね。

しかし、こうして約1年間、苦勞して育てても名鳥の後継ぎは現われず、殆んどが落第して及第生は100羽に1羽あるなしとの事で、泣く泣く山へ放すそうです。古くから伝わるこの道も、時代の波に押されて今や見る蔭もなく、テープレコーダーでインスタント授業が細々と行なわれている状態を、ウグイスに一生をかけた高野さんはなげいておられました。

なお、ウグイスを捕獲又は飼う場合、府知事の許可が必要です。(中川道朗)

シベリア寒波襲来



(朝日新聞社撮影)

1月17日水禽放養池にも厚い氷がピッシリ張りつめ、がちょうたちは泳げなくて氷の上をヨタヨタ。時々すべってしりもちをついてガーガーばやいていました。

ツシヤママネコの夜間生態観察実施中

世界中で当園しか飼育していない珍猫、ツシヤママネコは、昨年8月14日入園以来、一時肺炎にかかり心配しましたが幸い治療の甲斐あって今では以前にも増して元気な毎日を送っています。室温23度、湿度70%の特別室で木枯の吹く寒々とした園内を窓越しに眺め乍ら春の来るのを一日千秋の想いで待ちわびています。

さて、捕獲した大阪市立大学ツシヤママネコ探検部では去る1月29日より2月2日まで連続5日間にわたって当園協力の下に夜間の生態観察のため連続徹夜作業を続けています。京都大学理学部提供の赤外線照射装置を駆使して万全の準備態勢の下に行っていますので、必ずや今までの判らなかつたいろいろな観察成果が上がるものと非常な期待が寄せられております。

この赤外線照射装置は夜間真暗な場所でも赤外線照射によって明瞭に望遠鏡にうつし出される器械で観察に非常な力となっています。この成果は探検部でまとめて発表の予定です。

なお、同隊は2月20日頃、再び現地に赴きオスの捕獲をめぐっています。

こくちょう産卵中

1月26日朝、当園水禽放養舎内で1個産卵しているのを発見、すぐにたくさんのお餌を入れてやりました。続いて30日、2月1日と現在3個産んでいます。



このこくちょうは昭和37年以来、10羽のひなをかえし、大きくなったひなたちは各地の動物園へ交換使節してもらわれていきました。こくちょうは1回に4~5個卵をうみ、34~5日だいてひながかえります。こくちょうのひなが親に似ず灰白色のウブ毛につままれていきます。3月初めには可愛いひなたちがお目見得することでしょう。

キャンデーちゃんの豆まき



2月3日節分の日、チンパンジーのキャンデーちゃんは、去年の11月心ないはずらでかわいい妻を奪われたゴリラのゴリちゃんの家で、今年はある災厄がないようにとカーバイ豆まきをしました。

なきごえ 2月号もくじ

動物の紹介(日本ざる)	2
飼い方シリーズ(くじゃくの飼い方)	3
動物園グラフ	4.5
ペットを訪ねて	6
動物園ニュース	7

なきごえ 昭和42年2月15日発行（毎月1回15日発行）第3巻第2号（通巻22号）

編集人／和田辰巳 発行所／大阪市天王寺動物園協会 大阪市天王寺区玉水町2 電話大阪771-8401

定価 40円

